

表 令和5年9月の火山現象に関する特別警報、警報、予報及び情報の発表履歴

火山名	特別警報、警報 及び予報の状況	発表した火山現象に関する 特別警報・警報・予報・情報等		概要
桜島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル3、 入山規制)	解説情報 第89～97号	1日、4日、8日、11日、15日、18日、22日、25日、29日 16時00分	噴火活動が継続。昭和火口の噴火、噴煙、の状況。南岳山頂火口の爆発、噴火、噴煙、大きな噴石飛散、火映の状況。 現地調査による火山ガス(二酸化硫黄)放出量は、概ね多い状態。 火山性地震、微動の発生状況。 島内の傾斜計及び伸縮計で、13日から山体膨張を示す地殻変動が観測されていたが16日以降は概ね停滞。 GNSS連続観測では、長期にわたり始良カルデラの地下深部の膨張を示す緩やかな基線の伸びがみられる。始良カルデラ地下のマグマ蓄積の状況。
		降灰予報(速報)	(今期間発表なし)	噴火発生から1時間以内に予想される、降灰量分布や小さな噴石の落下範囲。
		降灰予報(詳細)	(今期間発表なし)	噴火発生から6時間先まで(1時間ごと)に予想される降灰量分布、降灰開始時刻。
口永良部島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル3、 入山規制)	解説情報 第43～52号	1日、4日 16時00分 5日(*) 17時00分 8日、11日、15日、18日、22日、25日、29日 16時00分	古岳及び新岳の噴煙の状況。火山ガス(二酸化硫黄)の放出量は、やや多い状態。 古岳付近の浅いところで火山性地震が多い状態。新岳付近の火山性地震もやや多い状態。GNSS連続観測では、6月下旬頃から古岳付近の膨張を示唆する変動。 (*)5日の火山噴火予知連絡会・火山活動評価検討会の第1回口永良部島地域会合による火山活動評価結果。
浅間山	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	解説情報 第61～69号	1日、4日、8日、11日、15日、18日、22日、25日、29日 16時00分	火山性地震は、7月下旬以降、概ね少ない状態で経過。山体の西側での膨張を示すと考えられるわずかな地殻変動が継続。 火山ガス(二酸化硫黄)放出量は3月下旬以降、以前より多い状態。
霧島山(えびの高原(硫黄山)周辺)	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	解説情報 第18～21号	4日、11日、18日、25日 16時00分	GNSSの硫黄山近傍の基線で、5月頃から山体浅部の膨張を示すと考えられるわずかな伸びがみられる。 硫黄山の南側の噴気地帯では活発な噴気活動が継続。西側500m付近では、弱い噴気を観測。
薩摩硫黄島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	解説情報 第36～39号	4日、11日、18日、25日 16時00分	噴煙、火映、火山性地震、地殻変動等の火山活動の状況。
諏訪之瀬島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	解説情報 第66～69号	4日、11日、18日、25日 16時00分	噴火活動が継続。大きな噴石の飛散の状況。火山性地震、微動の発生状況。GNSSでは、島の西側深部におけるマグマの蓄積量の増加を示す変動は認められない。
		降灰予報(速報)	11日 03時32分 19日 11時44分	噴火発生から1時間以内に予想される、降灰量分布や小さな噴石の落下範囲。
		降灰予報(詳細)	9日 05時00分 19日 06時29分 11時55分 12時58分	噴火発生から6時間先まで(1時間ごと)に予想される降灰量分布、降灰開始時刻。

令和5年9月 地震・火山月報（防災編）

火山名	特別警報、警報及び予報の状況	発表した火山現象に関する 特別警報・警報・予報・情報等		概要
噴火浅根	噴火予報 (活火山であることに留意)	噴火予報	21日 11時00分	警報解除。2022年3月に衛星ひまわりにより噴煙とみられる雲域を観測。その後、噴火は確認されず、顕著な変色水等の特異事象も認められていない。噴火が発生する可能性は低くなったと考えられる。
		解説情報 第1号	21日 11時10分	2022年3月27～28日に、気象衛星ひまわりにより噴煙とみられる雲域を観測。その後、衛星観測で噴火は認められず、海上保安庁が20日までに繰り返し行った上空からの観測でも、周辺で顕著な変色水や噴火に伴う浮遊物等はなかった。噴火の可能性は低くなったと判断し、噴火警報及び火山現象に関する海上警報を解除した。

注1) 表中、解説情報とは「火山の状況に関する解説情報」のことである。

注2) 浅間山、霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）、桜島、薩摩硫黄島、口永良部島、諏訪之瀬島においては、噴火警報を発表している間、毎日02時から3時間毎に8回降灰予報（定時）を発表している。

(*) 9月5日 17:00

火山噴火予知連絡会の火山活動評価検討会第1回口永良部島地域会合による火山活動の検討結果

1. 火山活動の状況

第1回口永良部島地域会合による火山活動の検討結果

口永良部島では、6月以降、火山性地震が次第に増加し、7月9日から15日にかけてさらに増加しました。その後は次第に減少していますが、6月の増加前よりも多い状態が継続しています。火山性地震は主に古岳付近で発生していますが、新岳付近での発生も認められます。

干渉SARによる地殻変動観測では、5月以降、古岳火口周辺で膨張性の変動が観測されています。また、GNSS連続観測では、6月下旬頃から古岳付近において山体膨張を示す変動が認められています。

8月15日から20日にかけて実施した無人航空機による観測で、古岳の噴気活動が活発化し、火口内及び火口縁付近で地熱域が拡大しているのを確認しました。また、火口底の南東側に新たな噴気地帯が形成され、土砂が噴出しているのを確認しました。

火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は8月以降、1日あたり200から400トンと増加し、やや多い状態となっています。

現在のところ、口永良部島のやや深部に多量のマグマが供給されたことを示唆する地殻変動は認められていませんが、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量が増加していることから、今回の活動にはマグマが関与していると考えられます。古岳においては、浅部の地震の多発や火口周辺の隆起、及び噴気活動の活発化を考慮すると、水蒸気噴火による大きな噴石及び火砕流に警戒が必要です。また、新岳においても、火口直下の地震活動及び熱活動も継続していることから、噴火の可能性は否定できません。

これまでの新岳での噴火を踏まえると、やや深部におけるマグマ貫入に伴う膨張や火山ガス（二酸化硫黄）放出量のさらなる増加、体を感じる地震の発生といったマグマ供給の増大を強く示唆する変化が起こった場合等においては、さらに規模の大きな噴火へ進展する可能性も考えられます。そのため、今後の火山活動の変化を引き続き注意深く監視していく必要があります。

2. 防災上の警戒事項等

新岳火口及び古岳火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。また、向江浜地区から新岳の南西にかけての火口から海岸までの範囲では、火砕流に警戒してください。

風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。